

## 事業区域の概況

### 1. 地域の概況

#### (1) 那珂川町の社会的状況

##### 1) 市町村合併の状況

栃木県東部の旧馬頭町は、昭和 29 年 7 月に 1 町 3 村が合併し誕生した町であった。旧馬頭町は平成 17 年 10 月 1 日に隣接する旧小川町と合併し、現在は那珂川町となっている。

##### 2) 人口

人口は、1 町 3 村が合併し旧馬頭町が成立した昭和 29 年がピークであり、その後は都市部への人口流出が続いている。近年も人口は穏やかではあるが減少している。

表 1 那珂川町の人口・世帯数の推移（各年 10 月 1 日現在）

単位：人（世帯数）

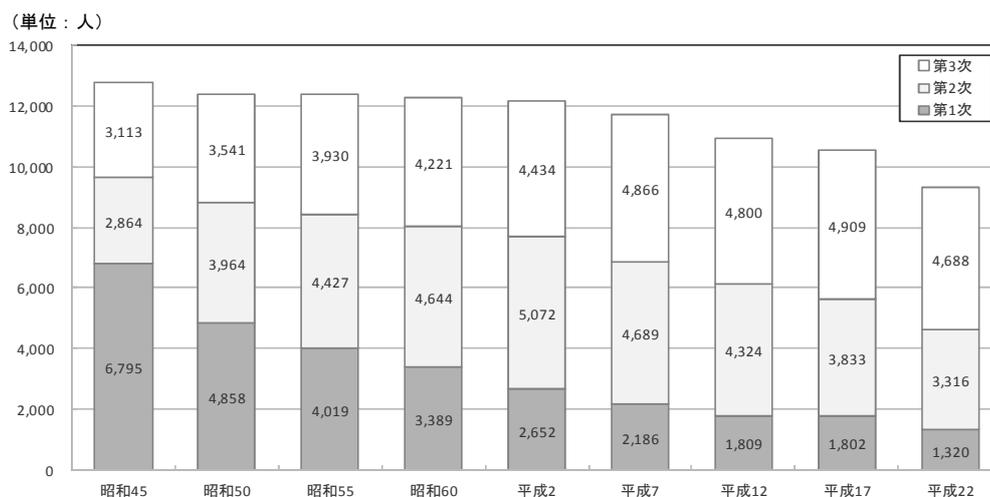
地区名	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
那珂川町	19,536 (5,861)	19,276 (5,884)	19,095 (5,935)	18,837 (5,976)	18,446 (5,877)	18,175 (5,872)	17,858 (5,857)

注) 表中の値は人口（単位：人）。ただし（ ）中の値は世帯数（単位：世帯）。

出典：「第 58 回 栃木県統計年鑑 平成 24 年版」 栃木県 平成 25 年 9 月

##### 3) 産業

那珂川町の主要な産業は、昭和 45 年時点では米、野菜、畜産を中心とする第一次産業であったが、その比率は年々減少し、平成 22 年時点では全体の約 14%まで減少している。変わって、第二次、第三次のそれぞれの比率が増加している。



出典：那珂川町のすがた 平成 25 年 4 月

図 1 産業別就労人口の推移

#### 4) 土地利用

那珂川町の土地利用状況は以下のとおりである。

地目別土地面積においては、山林が町全体の約 37%を占めており、一方で、農用地は合計で約 16%にすぎない。

なお、所有林別林野面積は 123.35 km<sup>2</sup>であり、町全体の面積（192.84 km<sup>2</sup>）の約 6割強を占め、山林が広範囲に分布するという特徴を有している。

表 2 那珂川町の地目別土地面積（平成 24 年 1 月 1 日現在）

区分	農用地		宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	総数
	田	畑								
面積 (km <sup>2</sup> )	19.88	11.70	6.13	0.03	71.78	0.12	3.47	7.91	71.82	192.84
割合 (%)	10.31	6.07	3.18	0.02	37.22	0.06	1.80	4.10	37.24	100.00

出典：「第 58 回 栃木県統計年鑑 平成 24 年版」 栃木県 平成 25 年 9 月

表 3 那珂川町の所有林別林野面積（平成 24 年 3 月 31 日現在）

区分	面積 (ha)	割合 (%)	
国有林	2,568	20.82%	
民有林	県営林	113	0.92%
	公有林	357	2.89%
	社寺有林	61	0.49%
	私有林	9,236	74.88%
	小計	9,767	79.18%
合計	12,335	100.00%	

出典：「第 58 回 栃木県統計年鑑 平成 24 年版」 栃木県 平成 25 年 9 月

表 4 保安林（民有林のみ）区分別面積（平成 24 年 3 月 31 日）

地区名	区分	面積 (ha)
那珂川町	総数	2,788
	水源かん養保安林	1,819
	土砂流出防備保安林	834
	土砂崩壊防備保安林	11
	防風保安林	—
	水害防備保安林	—
	干害防備保安林	71
	落石防止保安林	—
保健保安林	53	

出典：「第 58 回 栃木県統計年鑑 平成 24 年版」 栃木県 平成 25 年 9 月

## (2) 那珂川町の自然的状況

### 1) 大気環境

栃木県では「大気汚染防止法」に基づき大気汚染の状況を 37 ヶ所の測定局で監視している。

最寄りの那須烏山市を含む栃木県内の一般環境測定局(17 ヶ所)における二酸化窒素の年平均値は 0.010ppm であり、全測定局で環境基準を達成している。

出典：「栃木県大気汚染常時監視測定結果報告書（平成 23 年度）」栃木県

### 2) 水環境

栃木県では公共用水域の水質汚濁状況を監視するため、「水質汚濁防止法」に基づき、「公共用水域の水質測定計画」を策定し、平成 23 年度は県内 61 河川の 130 地点において水質調査を実施している。なお、事業区域周辺を流れる小口川及び久那川では水質調査地点は設定されていない。

那珂川の新那珂橋における水質測定の結果は、生活環境項目及び健康項目ともに環境基準を満たしている。事業区域周辺における BOD の調査結果は表 5 のとおりである。平成 14 年度の更生橋で BOD の基準値を超えているが、それ以外では環境基準(A 類型：2mg/ℓ以下)を満足している。

表 5 事業実施区域周辺における水質経年変化（BOD75%値） 単位：mg/ℓ

測定地点	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
新那珂橋	0.9	0.9	1.2	1.1	1.1	0.9	0.6	0.8	1.1	0.9
太郎橋	1.5	1.3	1.2	<0.5	1.2	1.2	0.8	0.8	0.9	0.7
更生橋	2.1	1.6	1.7	0.9	1.6	1.4	1.0	0.9	1.0	0.8

注) 環境基準 (A 類型) は、2.0mg/ℓ以下である

出典：「栃木県水質年表（平成 23 年度）」 栃木県 平成 25 年 1 月

## 2. 事業区域および周辺の状況

### (1) 土地利用の状況

当該地域は、約 9 割を樹林地が占め、そのうちの約 8 割がコナラ・アズマネザサ群落となっている。

事業区域内には養鶏場跡地が存在しているが、住宅等は存在しない。

事業区域の両側には、南北に集落が位置している。

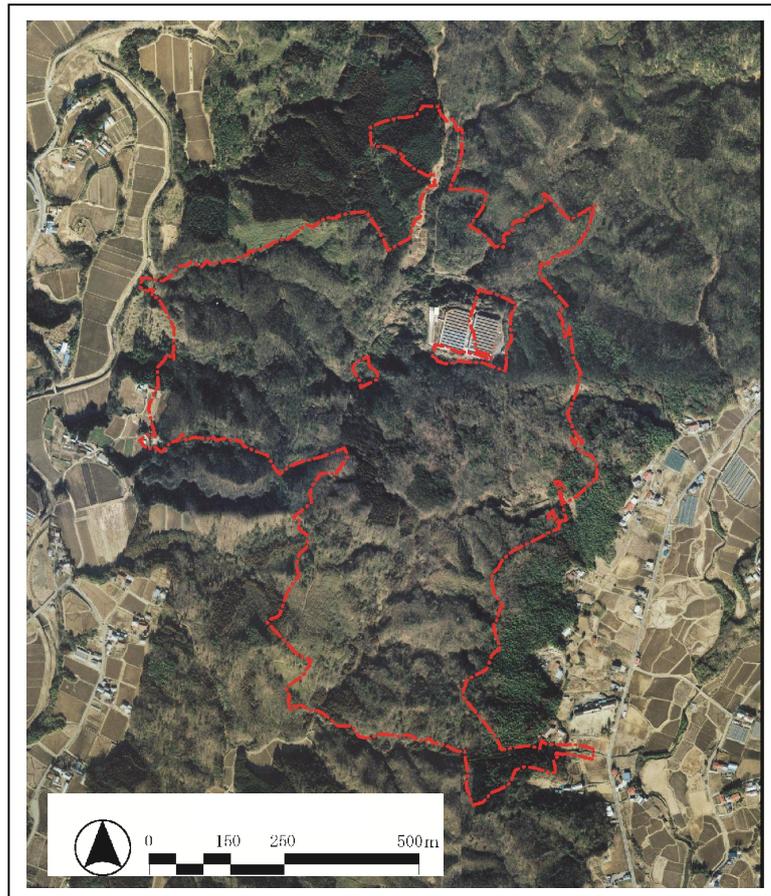


図2 事業実施区域の航空写真

### (2) 道路網の状況

事業区域及びその周辺における主要な道路として、一般国道 293 号、主要地方道の矢板・那珂川線、那須・黒羽・茂木線、一般県道の小口・黒羽線、小砂・小口線がある。また、付近には、一般国道 294 号がある。

事業区域から西側の一般県道小砂・小口線までは約 300m の距離があり、東側は主要地方道那須・黒羽・茂木線に接している。

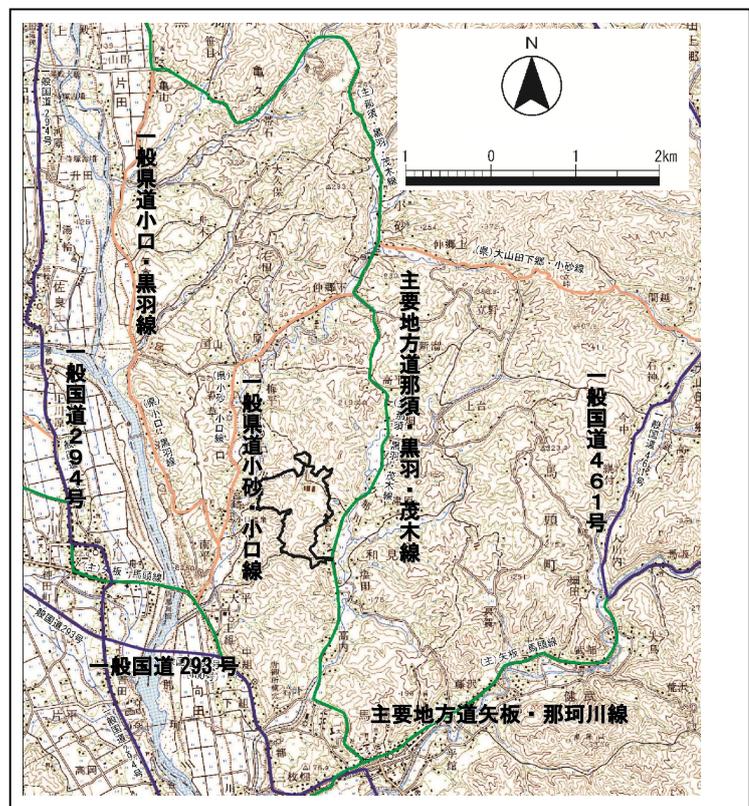


図3 事業実施区域周辺の道路網

### (3) 河川等の状況

事業区域及びその周辺における一級河川は、下表に示すとおり那珂川、小口川、久那川の3河川となっている。

また、事業区域内を南北に「備中沢」が流れており、事業区域下流で小口川に合流する。

表6 河川の概要

水系	河川名	区間延長(注)	流域面積
那珂川	一級河川那珂川	118.50km	1,301.4km <sup>2</sup>
	一級河川小口川	12.35km	17.6km <sup>2</sup>
	一級河川久那川	2.00km	12.4km <sup>2</sup>

注) 区間延長は、両岸平均の値とした。

出典：「栃木県利水現況台帳」栃木県 平成10年12月

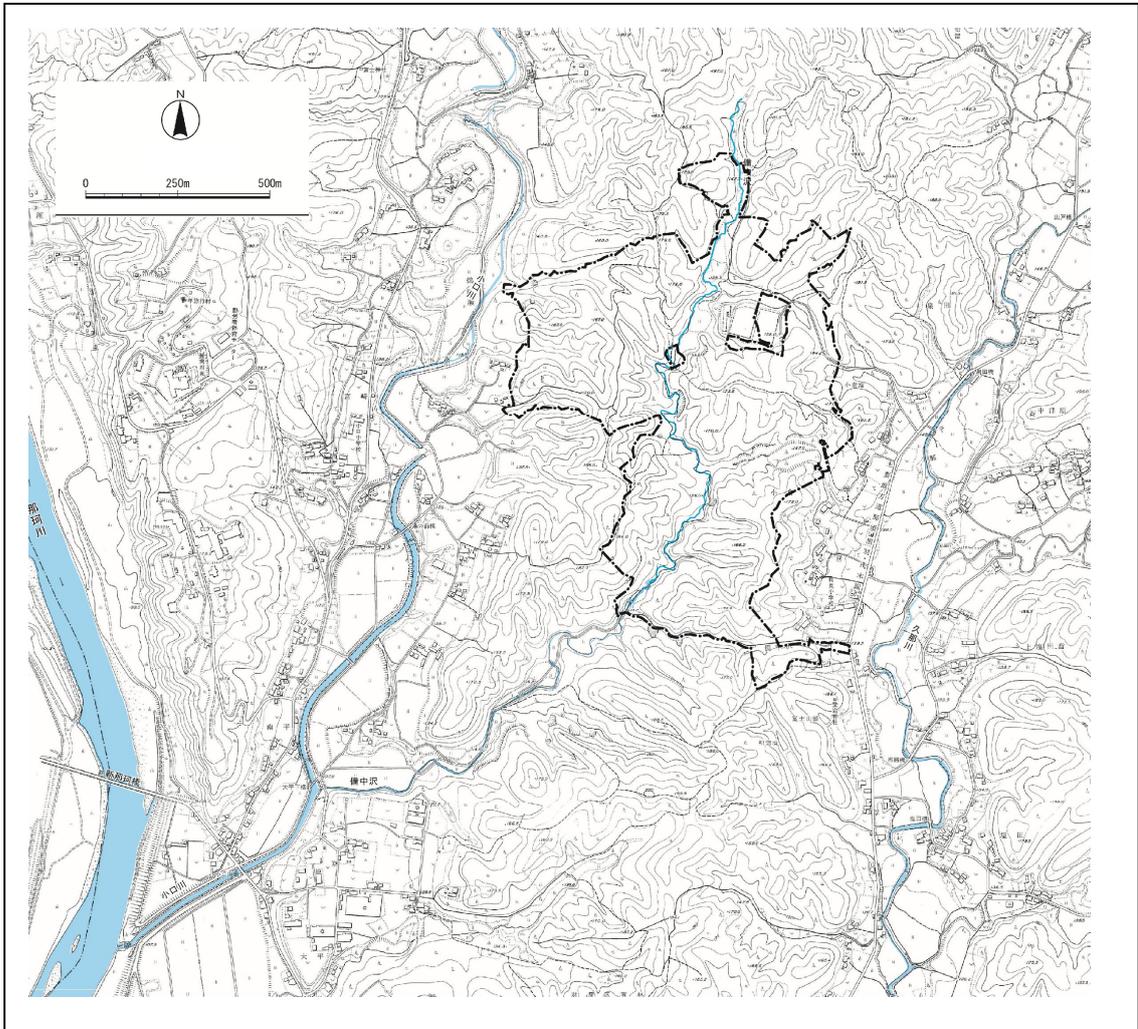


図4 事業区域周辺の河川の状況

#### (4) 地形・地質の状況

##### 1) 地形

本地域は、小口川と久那川にはさまれた標高 170～180m の定高性を有する丘陵地・山地からなり、中央部に小河川の備中沢が流下している。谷底の標高は 120～130m 程度で侵食谷を形成している。

##### 2) 地質

本地域の地質は、新第三紀中新世の荒川層群と呼ばれる凝灰質泥岩、凝灰質砂岩、細粒凝灰岩からなり、地層は概ね南北方向の走向で、西側に 10～15° 程度の緩い傾斜をもった単斜構造を呈している。

##### 3) 地盤

事業区域周辺には、第三紀中新世の凝灰岩層が分布し、備中沢の河床にも露出しているが、地盤沈下の原因となる軟弱な沖積粘性土層等は分布していない。また、地盤沈下防止の総合的な対策を講じるために国が策定した「関東平野北部地盤沈下防止対策要綱」において栃木県の地盤沈下防止対策地域には、当該地域は含まれていない。